

## 平成31年度(2019年度)学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	25-1	学校名	県立水戸桜ノ牧高等学校常北校				課程	全日制		学校長名	藤田 知巳					
教頭名	小 坏 正代								事務(室)長名	遅塚 朱美						
教職員数	教諭	11	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手	0	事務職員	2	技術職員等	2	計	22
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計	クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	28	11	21	10	22	9			71	30	101	3			

## 2 目指す学校像

県立水戸桜ノ牧高等学校常北校として、校訓の「至誠、勤勉、協和」の精神を徹底させ、心身ともに調和のとれた人間形成を図るとともに、地域社会に貢献できる学校づくりを目指す。

## 3 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現 状 分 析	課 題
学習指導	一人一人が輝く活躍の実施を通して定着させる。習熟度の向上を図る場が多い。	教員の授業力の向上を図りながら、個に応じた指導を継続することで、基礎学力を定着させるとともに生徒に達成感を与え、学習意欲を喚起する必要がある。
進路指導	平成30年度の進路状況(卒業生28名)は、進学13名、就職15名である。よりよい進路選択をするため、自ら情報を収集し、実現に向けて計画的に進める能力の育成が重要である。	進路ガイダンスやインターンシップの全員実施等を通して、低学年からキャリア教育を推進し、進路意識を高める必要がある。
生徒指導	落ち着いた生活態度や規範意識の生徒が大半であるが、一部の生徒が挨拶の場面に基本的な生活習慣の育成を必要とする。また、英会話を通じて積極性、協調性を育てる必要がある。	授業開始時に頭髪・服装指導を行い、好ましい学習環境づくりを行うとともに、自立に向けた基本的な生活習慣の育成を図る必要がある。
特別活動	1年生の1学期全員の宿泊研修・修学旅行・クラブ活動などを行う。また、英会話を通じて積極性、協調性を育てる必要がある。	1年生を含む部活動を全教員で指導し、放課後の活動を充実させるとともに、生徒の協調性や積極性を育てるホームルーム活動を行う必要がある。

## 4 中期的目標

1	学校行事を精選し、授業時間を確保するのと同時に、1時間、1時間の授業の充実を図る。
2	授業や特別活動等を通じた心の教育に努め、モラルやマナーを身に付けさせる。基本的な生活習慣の確立を図る。
3	挨拶の励行を促すと同時に、遅刻や遅い授業態度を身に付けさせる。
4	部活動への加入を促進して、学校生活に生き生きとした意欲を燃やさせる。体力・体力の向上を図る。
5	国際理解教育を推進して、国際社会に生きる人間の育成を図る。

## 5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学力の向上と定着	① 創意工夫を凝らした教材研究や教員相互の積極的な授業研修等を通じて、よりよい授業を展開する。 ② シラバス・授業進度を別々に学習意欲の喚起を図り、計画的・継続的な学習をさせる。 ③ 少人数・習熟度別授業の有効活用を徹底して、基礎学力を向上させ、定着させる。
2 基本的な生活習慣の確立	④ 頭髪・服装や授業開始・終了時、校内での挨拶を徹底させる。 ⑤ 登下校の計画や遅刻・遅い授業態度を徹底的に指導する。 ⑥ 3年生3年間を見通した計画的なキャリア教育を実践する。スクールカウンセラーとの連携等を通して
3 希望する進路の実現	⑦ 3年生3年間を見通した計画的なキャリア教育を実践する。 ⑧ キャンパス・職場見学、インターンシップ、各種講演会、各種講習会等により進路意識を高め、高揚させる。 ⑨ 学力向上と高定着の取り組みや資格取得の奨励を通して、より確かな進路実現を目指す。
4 特別活動及び部活動の活性化と豊かな人間性の涵養	⑩ 学校行事や生徒会活動、ホームルーム活動を通して、生徒の積極性を引き出す。 ⑪ 生徒の部活動への積極的な参加を促して、望ましい人間関係をつくり、充実した学校生活を過ごすようにする。 ⑫ 他校の生徒を尊重し、他人を思いやる心を育て、豊かな人間性を培う。
5 地域から信頼される学校づくりの推進	⑬ ホームページや地域広報誌、学校新聞等のPR手段を十分に活用して、保護者・地域に寄り添った情報を提供する。 ⑭ 学校評議員や近隣中学校等の意見を参考に、地域と連携した教育活動を展開する。 ⑮ 学校公開を計画的に実施して、本校に対する地域の理解促進を図る。 ⑯ 25年度からの分校化に伴い、分校としての特長を活かしながら地域との連携を図る。